

番号	29	名称	竹むら
指定日	平成 15 年 6 月 9 日	所在地	神田須田町一丁目 19 番地
設計者	不詳	竣工	昭和 5 年 (1930)



歴史・文化的特徴

明治初期に武家地を開発してつくられた地域に位置している。近くにあった筋違橋門内の広場は八路ヶ原と呼ばれ、交通の結節点であった。明治 45 年 (1912) ここに万世橋駅が建設され、もっとも賑わう場所となった。地域の南側には、昭和 3 年まで青果市場があり、活気のある場所でもあった。

昭和 5 年 (1930) 創業。作家・池波正太郎も通ったことで知られる甘味の老舗。奇跡的に戦災から焼け残り、昔ながらの情緒を漂わせている。

東京都選定歴史的建造物に選定されている。

意匠・構造の特徴

小振りではあるが丁寧な造作で仕上げられており、木造の 3 階建としては貴重な建物である。外観は屋根と庇で 4 層に見える。

入母屋造りで 2 階の欄干に竹と梅模様が彫られ、軒下に木製の提灯が下げられている。建物は修復が施されており、創建当時の原型をよく留めている。

周辺景観との関係

周辺にも老舗の飲食店が多く、老舗街のイメージに合った景観を形成している。

交差点の角地にあり、建物全体がアイストップの役割を果たしており、店先の植栽が潤いをも与えている。

モルタル塗りの外壁を持つ建物が多い中で、板張りの建物は風情があり、「和」の雰囲気醸し出している。